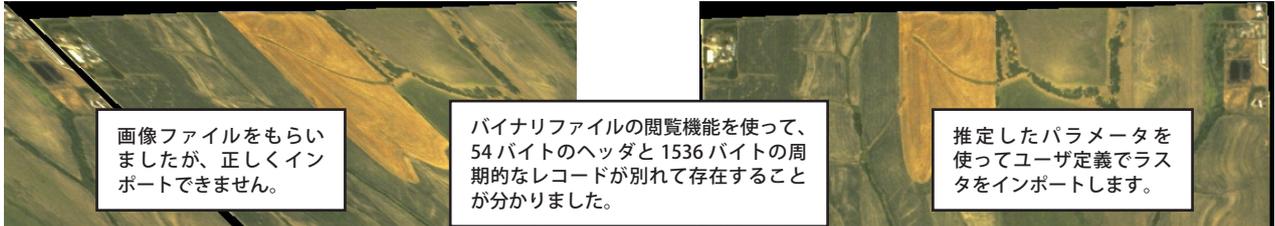


# バイナリファイル閲覧機能を使う



File: C:\Data\sect30  
File Size: 768054 Bytes  
Record: 1 Record Size: 768054 Offset: 0  
Data Type: Unsigned 8 bit Format: Hexadecimal Byte Order: Intel (lo-hi)

```

00000000: 42 4D 36 B8 0B 00 00 00 00 00 36 00 00 00 28 00
00000016: 00 00 00 02 00 00 F4 01 00 00 01 00 18 00 00 00
00000032: 00 00 00 B8 0B 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00
00000048: 00 00 00 00 00 00 FF FF FF FF FF FF FF FF FF
00000064: FF FF
00000080: FF FF
00000096: FF FF
00000112: FF FF
00000128: FF FF
00000144: FF FF
00000160: FF FF
00000176: FF FF
00000192: FF FF
  
```

ファイルヘッダ情報は、54バイト目で終了しています。

FF値は、使用されていないファイル領域か、画像上部のヌルセルの始まりを示します。もっと検査が必要です。

単なる観察からでもファイル構造に関する情報が十分得られますので、正しいインポートパラメータに関する適切な憶測を立てることができます。

... 次の00の固まりは 7782 で終了することが分かります ...

... 次の00の固まりは 9318 で終了し、 ...

... 次の00バイトの固まりは 10854 で終了しました。各レコード、つまり画像データの各行は1536バイトで、512の3倍です。つまり、512列で8-8-8のRGBカラーデータとしてインポート処理すればよいことが分かります。

ラスタのインポートに関する多くの問題は、インポートするファイルの内容や構造を見ると簡単に解決できることがあります。周期的な内容の繰り返しは往々にしてデータ行を示します。ヘッダ情報がどこで終了するか見つけることもできます。ちょっと計算すれば、画像の行と列が分かります。

複数バンドやバンド間のヘッダやトレーラの存在、画像圧縮のある複雑な形式では、難しさが当然増します。TNTのラスタインポート処理では幅広い種類の形式や構造を指定することができます。入力ファイルの中を見ることにより、バンド数や行/列のサイズ、データタイプ、ヘッダやトレーラのサイズや位置、バイトオーダー、インターリー

ブタイプ等についてより正しく類推することができます。ファイル中をスクロールして行き、データブロックの始まりと終わりのアドレスを確認します。画像の新しい行や列を暗示するような周期性を注意して探します。行と列の大きさが分かったら、それらを掛け合わせてファイルサイズを比較してみてください。例えばファイルサイズが行 x 列の3倍に近ければ、インポートする画像には3つのバンド(24ビット)が含まれていると推測されます。

ファイルに関して全てを発見できなかったとしても後は推測でオブジェクトをインポートして、TNT表示することができます。その結果を見て、再度パラメータを変更して、再インポートします。